

すべての人に、食べ物を。Food for all people

Annual Report 2014



SECOND
HARVEST

セカンドハーベスト ジャパン

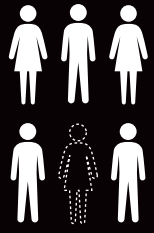
今、日本で賞味期限が切れていないにも関わらず
捨てられる食品は、年間300～400万トンにも上ります。
それは日本のお米の生産量の約半分にもなります。

平成24年度 農林水産省「食品ロス削減の取組」より、事業系廃棄物のうち可食部分と考えられる量

たとえばこんな理由で捨てられてしまいます。

商品の売れ残り 在庫	包装の破損 表示ミス	規格外 余剰農作物
3分の1ルール 製造から賞味期限までの期間を3分の1に区切り、小売店への納入までと消費者に販売するまでのそれぞれ3分の1の期間が過ぎた食品は廃棄されたり返品されたりしてしまう。		

約**6**人に**1**人
日本では月に10万円以下で生活している人がいます。
(厚生労働省、OECD、また独自調査による)

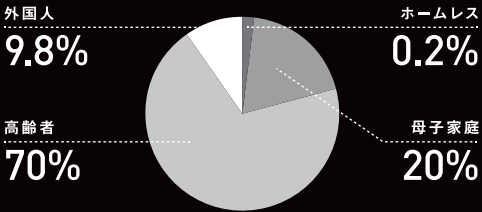


その中でも
フードセキュリティ※に欠ける人は

約**230**万人
いると見積もっています。

※社会生活の中で安全かつ十分に栄養のある食べ物を得られること

[230万人の内訳]



さまざまな理由によって膨大な
食べ物が捨てられている一方で、
食べ物に困っている人がいます。

すべての人に、食べ物を。

Food for all people.

私たちは、
日本初の
フードバンクです。

私たちの名称は、
「すでに収穫された畑から二度目の収穫をする」
という考えに由来しています。
セカンドハーベスト・ジャパンは、
「フードバンク・ジャパン」として活動していた当初から、
人びとを支援する事に従事してきました。

フードバンクとは、食品を寄贈していただき、
それらを児童養護施設の子どもたちや
DVから逃れた方のためのシェルター、
さらに路上生活を強いられている人や
生活困窮者などの元に、届ける活動のことです。

フードバンクの流れ



Second Harvest Japan by the Numbers

数字で見るセカンドハーベスト・ジャパン

※2014年12月現在の数字です



31,869時間

2014年中のボランティア活動時間

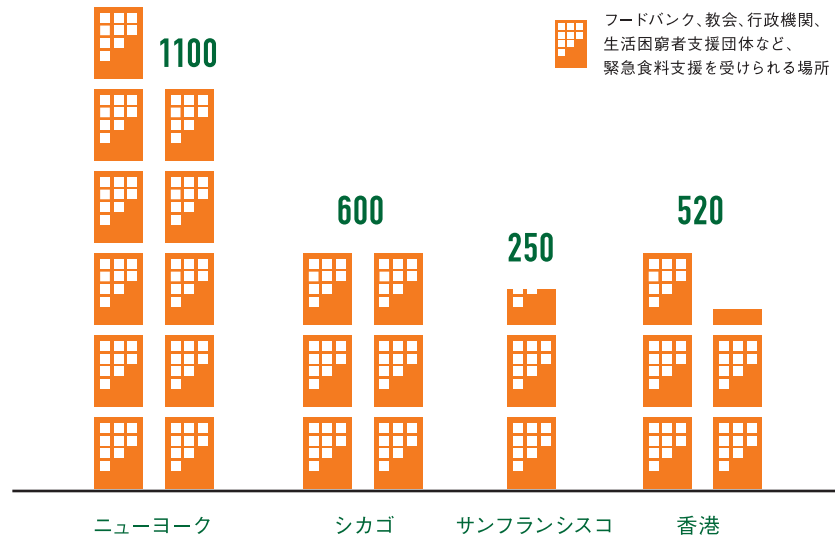
私たちの活動全てにおいて、ボランティアの力が関わっています。セカンドハーベスト・ジャパンでは1年間にこれだけの「時間の寄付」を頂戴しました。



6人分

フルタイムスタッフ約6人分に相当するドライバーボランティア

フードバンク活動を語る上で欠かせないのがドライバーボランティアの協力。食品を引き取り、運び届ける、いわばフードバンクの大動脈を担うドライバーボランティアとアシスタントの活動時間は、フルタイムスタッフ6人分にも相当します。



日本ではまだまだ少ない、緊急的な支援を受けられる場

上の図のように、海外では緊急的に食料を得られる「フードセーフティネット」の機能を果たす場が多く存在します。日本ではまだまだ少ないこうした場を、私たちは行政、NPO、お寺や教会、地方フードバンク団体などと連携して拡大していきます。



4,077,941食※

2014年中に提供した合計食数(換算数)

企業や個人の皆様から寄贈された多くの食品。これを食数に換算するとその数、4,077,941食にも上ります。皆様の支援がこんなにもたくさんの「ありがとう」に変わりました。

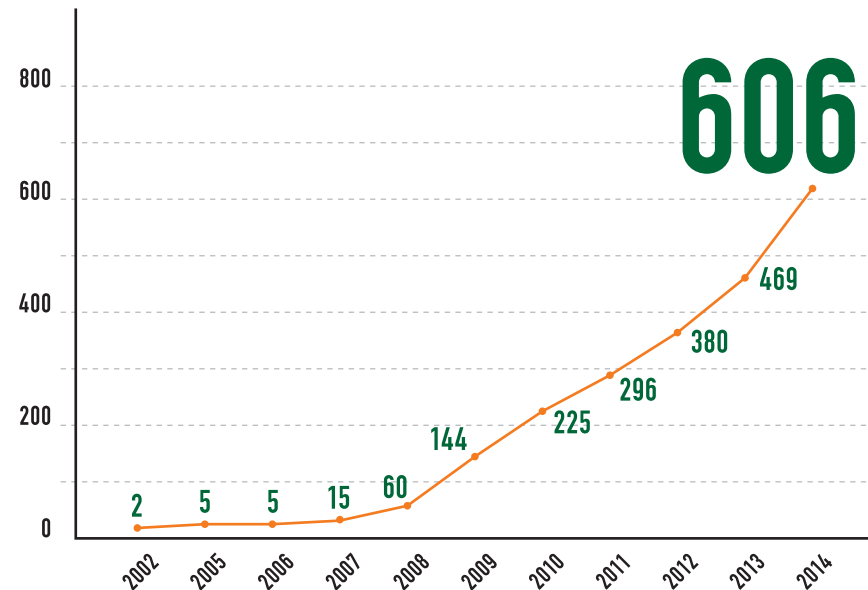


=23.5円※

1食提供あたりの提供コスト

私たちが行う活動全体において、2014年中は1食あたり23.5円のコストで提供することができました。

※すべての寄贈品重量から、飲料、水を除き、一人が一日生存するのに必要な量からの試算しています



私たちに食品を提供してくださる企業・団体数の推移

私たちは食品を提供してくださる企業・団体と合意書(寄贈品授受に関わる契約)を締結しています。活動を開始した2002年当初はわずか2ヶ所だった食品提供企業・団体は、2009年7月に100を超え、現在は606まで増えました。

セカンドハーベスト・ジャパンは、
「すべての人に食べ物を」という理念のもと、
4つの柱で活動をしています。

01

Harvest Kitchen

ハーベストキッチン

毎週土曜日、生活困窮者を対象に温かい食事を提供する活動です。



02

Harvest Pantry

ハーベストパントリー

食べ物が必要な世帯に、米や調味料などの食品類を提供する活動です。



03

Food Bank

フードバンク活動

NPO、福祉施設、教会などに大口で食品を提供しています。



04

Advocacy and Development

政策提言と発展

フードバンク活動の普及と、フードセキュリティ向上のために政策提言を行っています。





Harvest Kitchen

ハーベスト キッチン

生活困窮者を対象に、温かい食事を提供する活動です。

毎週金曜日の準備と、毎週土曜日の食事提供を、多くのボランティアの皆さんのご協力を受けて行っています。

毎回、種類も量も違う食材から何を作ろうか？定期的に参加しているレギュラーボランティアさんと一緒に献立を考え、初回のボランティアでも楽しめるよう、皆でアイデアを出して工夫を重ねています。毎週金曜日に仕込みを行い、翌日土曜日に仕上げた料理を車に乗せて出発。配布場所の上野公園に並ぶ人数により量の配分を考えて準備完了。雨の日も風の日も炊き出しを待っている方がいます。天候などの理由でキャンセルになったことは一度もありません。この活動は参加された皆さんとのチームワークによって実現できています。

2014年度の活動

炊き出し活動以外に、お弁当の提供も開始

毎週上野公園で行っている炊き出しの配食数は年々減少している為、2014年は配食拠点を拡大しました。上半期は、社会福祉協議会を通じて生活が困窮しているひとり親世帯へお弁当を配食し、下半期は、新宿で路上生活者の相談窓口を行っている「新宿ごはんプラス」に毎月約240食分のお弁当を提供し、相談に来るきっかけとしても利用していただきました。年間通じ、2HJのハーベストパントリーが行っている隅田川沿いの食品配布時にお弁当も配布しました。ボランティアさんのご協力により、配食数が昨年より24%増えました。

子どもを対象に、お料理教室とお菓子教室を実施

ある福祉団体から、生活困窮世帯の子どもを対象に、「調理の体験を通じて食育を学べる場を提供して欲しい」との依頼があり、夏休み時期に小学生を対象としてお料理教室を実施しました。お料理教室のメニューは、豚汁、目玉焼き、フルーツポンチ。当日は予想を上回る数の子ども達が参加しましたが、ボランティアさん達の事前準備と当日の対応により、大成功に終わることができました。また、シャングリ・ラ ホテル 東京の全面的なご支援のもと、ひとり親世帯の子ども達にお菓子教室も開催しました。



協力団体の声／受け取った方からの声



ごはんをキッカケに相談できる場を！
新宿ごはんプラス 大西 連さん

2014年7月から「新宿ごはんプラス」の活動はスタートしました。毎月2回、新宿の路上で、2HJの協力によるごはんの提供と、暮らし・健康の相談会をおこなっています。2HJのお弁当は野菜多めで栄養満点。野宿の人など相談に訪れる生活困窮者からも大好評です。今後ともに協力関係を築いていきたいです！

ボランティアさんの声



食品を有効活用 活動に共感
大須賀 和美さん

児童館等で墨田区の工場廃材を使った工作を子供たちに教えてもったいないを有効活用して新たな価値を生み出す活動をしています。たまたま新聞で知ったフードバンク活動にもとても共感し、毎週金曜の炊き出し準備に参加して6年目。食品のみならず時間や頭や手も楽しく仲間と有効活用しています。

炊き出しでの食事 立ち直るきっかけに
シイナさん

2HJの炊き出しで特に好きなメニューは、カレーライスです。食事をいただく日は、いつもボランティアをしています。無職だった時は、ボランティアとして関わっていたお陰で立ち直り、仕事に復帰できました。たとえ一回の食事でも、生活がピンチの時は助かります。命をいただいていると思っています。有り難うございます。



食品ロス問題に取り組む素敵な人たち
ウォーナー スティーブンさん

母国のアメリカでも食料支援のボランティア経験があり、2009年に友人から誘われ迷わず参加。素敵な人達が食品ロスの問題に取り組み、支援の必要な人に食品を届ける素晴らしい活動をしているというのが第一印象でした。この気持ちは年々強くなり、今はボランティアリーダーとして毎月参加しています。

2014年度の実績

炊き出しボランティア参加人数合計(延べ)

5,461人

上野公園の炊き出しとお弁当配給数

19,551食

今の課題と今後の展望

配食拠点の拡大と衛生環境の向上へ

ハーベストキッチンで取り組むべき課題は、主に2つあります。一つ目は、配食拠点の拡大です。今後は炊き出し以外にも、お弁当などの方法で、食料支援が必要な人、特にひとり親世帯や高齢者への配食拠点を拡大していきます。2つ目は、衛生面で完備されたキッチンスペースの獲得です。現在のキッチンスペースでは、より頻繁に計画的な清掃を行うなど、現状でも可能な限り衛生面の向上に取り組めます。同時に、調理に特化出来る移転先を探します。

Harvest Pantry

ハーベスト パントリー

誰もが安全で栄養のある食品を手にすることができる。これが基本的なセーフティネットの一部であるべきだと、私たちは考えています。こうしたフードセーフティネットを構築するために日々取り組んでいます。

セカンドハーベスト・ジャパンでは、この日本で230万人もの人々がフードセキュリティ（日常生活を送る為に、安全、かつ栄養のある充分な食べ物を適切な手段により得られる状態）に欠けていると推定しています。ハーベストパントリーではそうした人々へ主食となるお米や調味料、生鮮食品や缶詰などを配布する活動を行っています。食料支援が必要な方々をいかに見つけるかという課題と向き合い、新たな方法や連携の形を模索し続けています。

Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

2014年度の活動

2つの活動で個人世帯を支援

ハーベストパントリーでは個人世帯を対象に食料支援をしています。支援は直接食品を手渡す『パントリーピックアップ』と、食品を詰め込んだ箱を送付する『パントリーパッケージ』という2つの活動を通じて行っており、食品を受け取る方はひとり親家庭の世帯や、失業中で一時的に無収入の期間がある方、自国での迫害を逃れ日本へやってきた難民の方々など様々な背景を持っています。ハーベストパントリーではこうした方々へ、生活再建に向けた第一歩を踏み出すための安心感を、食べ物を通じてお届けしています。

ボランティアと協力団体で築く支援体制

毎週行われている2つの活動は、ボランティアさんの協力を得て実施しています。私たちが活動を継続していて常に課題となることは、食品を必要としている方がどこにいるか、そしてそれをいかに把握するかという点です。私たちは都内を中心として活動しているNPOや困窮者支援団体、行政と連携し、より広く適切な範囲へ食品が届けられるよう協力体制を築いており、この体制をこれからも拡大していきます。不安を抱えた方が生活を建て直すまでの道筋に、毎週の活動を支えてくれるボランティアさんと、これら協力団体の存在は欠かせません。

協力団体からの声

いつも難民の方の大きな支えになっています

 **難民支援協会** 難民支援協会 土岐 茂里さん

私たちの事務所には毎日たくさんの難民の方が相談に来ます。お金がなく食べ物を買うのも難しいと仰るときに、2HJをご紹介します。お米や野菜などをもらえると聞き、それまでの不安そうな表情からほっとした表情になる方もいて、いつも大きな支えになっています。

食のエンパワメント

 **Saya-Saya** 女性ネットSaya-Saya 高田 絵里さん

食べることは生きることに直結するシビアな問題であると共に楽しいことでもあり、楽しみを持つことは生きていくのに大切なことです。生きていく上で必要不可欠な食で各地のコミュニティをつなぎ直す2HJの活動に連なることで、これからも多くの人たちがエンパワーされるでしょう。

ボランティアさんの声

 **食と人の繋がり 笑顔を想像して**
入江 則子さん

食べる事はシアワセを感じる事。必要とされている方達に届く箱一杯の食べ物。開けたときとそこには皆さんの笑顔がある。そんな笑顔を想像して活動しています。きっかけはNuSkin社の活動。週一度、無心で人と食の繋がりに関われる2HJの活動は私にとって、とても充実した大切な時間です。

 **日本の社会問題 見直すきっかけにも**
皆川 久仁子さん

寄付して頂いた食料に、愛の言葉と笑顔を添えて、受け取りにいらした方々にお渡ししています。皆さんの喜んで下さる顔と、すてきな仲間との出会いが、私たちボランティアの最大の報酬です。今まで見逃していた食料、難民、貧困などの大きな社会問題に目を開く機会をもらいました。



2014年度の実績

パッケージで食品を受け取った述べ世帯数

3,124 世帯

ピックアップで食品を受け取った述べ世帯数

6,062 世帯

今の課題と今後の展望

ステークホルダーとの関係を強化し、効率化された体制へ

パントリーの2015年のキーワードは「連携強化」と「効率化」です。まず、既存の協力団体との連携強化と、新たな協力団体との連携体制を拡大します。食品を必要としているところに届けるために、生活困窮者支援団体や、ひとり親家庭支援団体など、東京を中心とした各機関とネットワークを構築し、情報交換の場を増やします。これによりパントリー活動の認知度を上げ、食品支援数を増やし、双方で包括的な支援へとつながることが狙いです。また、こうした多様なステークホルダーとの交流で得られた支援対象者のニーズや情報を用いて、食品支援の効率と効果自体を向上させるため、新たなプロジェクトを立ち上げます。これらの目標を達成するために、パントリー内部では既存業務のあり方を見直し、効率化を同時に進めていきます。



Food Bank

フードバンク活動

企業や福祉施設、NPOなどと連携して、品質には問題がなく賞味期限も残っているのに様々な理由で廃棄されてしまう食品を寄贈してもらい、国内の生活困窮者の方々に届けています。

2HJフードバンク部の一。朝早くからボランティアドライバー、アシスタントが食料をトラックへ積み込み配送に出かけます。三々五々食品サポーターからの寄贈食品が届けられます。種類は調味料、米、パスタ、加工食品、レトルト、飲料、菓子、缶詰、災害備蓄食料と様々。お昼前後、様々な団体が車で食料を引き取りに。電話は一日中鳴りっぱなし。スタッフは短めの昼食を取り、寄贈を希望する企業や関連先と連絡を取り合います。夕方、配送に出ていたトラックが帰還し、事務所には元気な話し声が。「皆様、御苦勞様でした」皆無事に帰り安堵。その後スタッフは残務処理が始まります。



Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

2014年度の活動

食品寄贈企業・団体数が通算600社に到達、非食品企業が増加

本年度は新たに138の企業・団体と合意書（寄贈品授受に関わる契約）を締結し、通算で600社を超えました。なかでも災害に備えた事業者の食品備蓄が広まる中、賞味期限の近づいた備蓄品を入れ替える際に捨てずに社会貢献に活かしたいという非食品関連企業・自治体などからの問い合わせが増えており、新たに95社より寄贈を受けました。災害備蓄品は福祉施設での利用はもちろん、調理器具を持っていない生活困窮者でも利用が可能のため、個人支援をしている団体や2HJのパントリー活動でも非常に役立っています。



衛生安全管理レベルの向上

2HJA※による衛生安全管理監査合格に向け、設備の補修や定期清掃の文書化、入庫時検品のチェックリスト化、その他ワークプロセスの見直しなどハード・ソフト両面での改善を進めました。なかでも進化したのが8台ある冷蔵冷凍庫と常温倉庫内の温度管理です。新しく導入した温度計は計測状況無線LAN経由でクラウドサービスにアップロードし、現在値の一覧や温度変化のログを確認することが出来ます。また、設定した温度の範囲を超えた場合の警報機能も備えています。監査が導入されることで、2HJA傘下のフードバンク団体の管理レベルも着実にあがっていきます。

※2HJA…公益財団法人セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス。P.26参照。



受け取った方からの声



こども達にお腹いっぱいご飯を提供！
青少年の居場所kiitos

ダンボールは幸せの詰まった「びっくり箱」。多彩な食材でメニューは広がり、「おかわり！」が遠慮しないでできる喜び！おせんべい1枚だったおやつが、憧れの品を1人前たっぷり食べられる嬉しさ！なんと言ってもお財布にやさしい！配達の方がやさしい！セカンドハーベストさん、やさしさをありがとう！

ボランティアさんの声



震災を機にドライバーボランティアへ
鈴木 重章さん

3.11経験後にボランティア参加した石巻の被災者支援NPOに食品を提供していたのが2HJであったことから、東京でも2HJで活動がしたいと思いドライバー・ボランティアに参加させていただきました。もったいない食品を必要としている施設に届ける度に感謝の言葉を頂けるのが励みとなっています。



食品ロスを活かす楽しいボランティア
青木 幸子さん

息子達の独立をきっかけに社会と関わりを持ちたいと飛び込んだのが2HJでした。現在、10施設に自家用車で配送しています。その折にお話を伺い必要な食べ物をお届けする事が喜びとなっています。食品ロスを活かして、様々な方との心の触れ合いもできるこの楽しいボランティアは私の宝です。

2014年度の実績

届けた食料

1,325,000人/1日分

届けた飲料

494,000人/1日分

上記は1人が1日生存するのに必要な量からの試算

今の課題と今後の展望

フードバンク活動がさらに力強く前進するために

2013年は“栄養、ニーズ、連携の可能性”の側面から、高水準の食品サポーター重視の方針を定めました。2014年は他方のパートナーである施設もその特性により再評価を行いました。2015年は3つのネットワーク、“サポーター（食品寄贈・資金援助・プロボノ・ボランティア・各種支援）”、“施設（社会福祉施設など）”、“フードバンク（2HJA傘下のフードバンク団体）”との関係をさらに強化します。また、4月に施行される「生活困窮者自立支援法」で創設される、新たな「第二のセーフティーネット」へリソースの許す範囲で積極的に関与します。上記目的達成のため“ネットマッチング用プラットフォーム”を立ち上げ、ネット上で食品サポーターと受益者のニーズ調整、双方向のコミュニケーションができるようにします。業務の効率化も合わせて進めてゆきます。また、神奈川県内へ新拠点を設け、より高いサービスが提供できるようにします。そのためには寄贈される食料を増やさなければなりません。“災害備蓄用食料”をより積極的に活用してゆきます。また、上部団体である2HJAでは、第三者（専門家グループ）による衛生管理監査をスタートさせます。引き続き日本でのフードバンク活動をリードしてゆきます。

政策提言と 発展

**フードバンク活動を広めて目指すものはフードライフラインの強化・整備と
フードセーフティネットの構築。そのために、私たちは日本中で政策提言を行っています。**

セカンドハーベスト・ジャパンを設立した2002年から現在に至るまで、私たちはフードバンク活動を広めるために北海道から沖縄まで日本中を訪ねてきました。地方で新しくフードバンクを始める方々へ様々な形で支援を行い、政策提言を続け、目指すものはフードライフラインの強化・整備とフードセーフティネットの構築。まだ食べられる安全な食品を捨てずに活かすフードバンク活動は、この社会にとって前向きな代替手段であると、私たちは信じています。 ※フードライフライン、フードセーフティネットについてはP.25を参照ください。

2014年度の活動

第7回フードバンクシンポジウム開催

2014年10月15日に開催した第7回フードバンクシンポジウムでは、フードバンクに共感し、既に取り組みを始めているステークホルダーの方々から事例をご紹介いただく場を多く設けました。サブタイトルは「企業と施設のニーズに応える優れたフードバンクとは」。食品を届けている先の施設、地方で活動しているフードバンク団体、NPO、社会福祉法人、そして企業。様々な立場からフードバンクを活用し、共に築くこれからの日本のフードバンクの姿を、来場の皆様と共に考えました。

フードバンク活動の知名度 教育の現場でも

英語の教科書として広く活用されている、三省堂 CROWNの平成25年度版で、フードバンク活動についての取り組みがレッスン内容として取り上げられました。こうした動きも手伝い、授業や課外学習にボランティア活動を取り入れようと、私達の活動に参加する学校も増えました。

高校英語教科書
「CROWN English Communication I」(三省堂 発行)



Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



アジアでのフードバンク活動 関係各国と連携

10月16日の世界食糧デーに合わせて、アジアフードバンク協会が正式に発足、2HJもメンバーとなりました。協会ではフードバンク活動の基準維持、自然災害発生時のフードバンクの機能について話し合い、その役割をそれぞれが果たすよう再確認しました。この協会はシンガポール、マレーシア、フィリピン、香港、台湾、韓国のフードバンク、そして私たち2HJで構成されています。



※PAB、FABについてはP.21をご覧ください。

PAB・FABメンバーからの声



ビジネスバックグラウンドを活かして 2HJの発展に貢献

ガスコンス・リーランド

私はもともと2HJの隅田川沿いでの食料配布に2003年から関わっていました。

PAB が作られた時、私のビジネスバックグラウンドを活かして団体を助けることができるチャンスだと思いました。PABの会合では、メンバーはチャールズの相談役となり、違った視点から考えるように彼を諭すこともたびたびです。2HJは企業とのパートナーシップをうまく持ち、プロフェッショナルなマネジメントがなされている団体という点で、日本の多くのNPOと一線を画すと思います。PABでの意見が団体の助けとなり、長年の発展と成長に貢献したなら幸いです。



世界のケロッグ社で フードバンク活動を支援しています！

日本ケロッグ合同会社
代表職務執行者社長 井上 ゆかり

日本ケロッグは2008年から2HJに寄贈しています。米国ケロッグが30年以上、米国のフードバンクに寄贈しており「日本でも」と話が来たのがきっかけでした。2013年は、10月16日世界食糧デーに世界のケロッグ社でフードバンクへの取り組みを実施しました。日本では2HJ主催シンポジウムに出展、私を含めた合計12名のボランティア参加、11月に発生したフィリピン台風被害への支援物資を提供させて頂きました。

2014年度企業連携実績

2014年度にも、様々な企業と共に
多くの連携を行ってきました。

ニュー スキン ジャパン 株式会社様

2006年の3月から毎月150万円の支援を頂戴し、児童養護施設や母子生活支援施設へ継続的な食品提供をしています。2014年からは新たにFood For Kidsプログラムを共同で実施、児童養護施設へ毎月食品を届ける活動が始まりました。施設の毎日の食卓に笑顔が届いています。



合同会社 西友様

合同会社 西友様では食品の寄付だけでなく寄贈品を引取り、配送する為の資金も援助して下さいます。寄贈量の拡大に伴い、2014年12月には冷凍冷蔵庫を新たに購入させて頂き、これにより冷凍品と冷蔵・常温品を組み合わせたより効率的な配送が可能になりました。



ジェイティ飲料 株式会社様

2HJのロゴマークが入ったオレンジ色の自動販売機。これはジェイティ飲料様とのコラボ企画により誕生した社会貢献型自動販売機です。売上の一部が寄付される仕組みで、各地での導入が20台を超えました。誰でも簡単に社会貢献ができ、多くの人に2HJを知って頂けるメリットがあります。





Tohoku Relief Work

東北支援活動

東日本大震災発生の当日、帰宅困難者へ配った温かいスープから始まり、2日後には東北へ。
石巻市に拠点を置き、これまでに食品パッケージの送付や協力団体を通じて食品支援を行ってきました。

宮城県石巻市は津波被害が大きかった地域です。仮設住宅は市内に7,153戸が建設され、平成26年11月時点でも5,928戸に13,103人、民間賃貸借上住宅(みなし仮設)では4,057戸で10,472人が生活をしています。2HJは石巻被災者生活支援プロジェクトを立ち上げて以来現地NPO等と連携し活動してきました。行政はもとより社会福祉協議会、生活支援団体、民生員等と幅広いネットワークを通し、食料支援が必要な方に届ける仕組みを構築・拡大するとともに、フードバンクシステムの普及・促進を行っています。

東北から届いたメッセージ

これまで支援を継続してきた東北の皆様から頂戴したメッセージを、一部ご紹介します。
ここに寄せられた言葉は、支援者の皆様へ向けた感謝のメッセージでもあります。

一瞬にしてすべてを失ったあの日から、大変助かりました。感謝の念でいっぱいです。この温かい善意に私も過去を振り返り反省することもしっぱいでした。私には出来たでしょうか…？今まで他で震災があった時、私はどんなことをしただろうか…？等々。全国の温かいご支援に頭の下がる思いであります。本当にありがとうございました。

福島から山形に避難して、二重の生活でお金が大変だったのでとても助けていただきました。いつまで続くのか分かりませんが、子供のためにできることはしていければいいなと思っています。たくさんさんの食材を頂きありがとうございます。スタッフのみなさまもいろいろ大変だと思いますが、体に気を付けて頑張ってください。

福袋のように開ける楽しみがあります。いただいたお手紙がとても嬉しいです。いただく事が当たり前ではない。私たちも甘えてばかりではいけない。そこを自覚できるよう促してもらい、必要な人に必要な形で支援していただければ良いのかなと思いました。原発事故以降今後も続く母子避難世帯には続けてあげてほしいと思います。

支援先のご家庭から



夫婦ふたり、新しい地で前を向いて立ち上がろうと思います

佐々木 義弘さんと奥さん

大震災から時間だけが過ぎていくばかり、セカンドハーベスト・ジャパンさんには私たち夫婦が被災し、精神的に一番しんどく、厳しいときに継ぎ目のないご支援の手を差し伸べていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ご恩は忘れることができません。今、故郷の石巻を離れ、前を向いて立ち上がり、これからの人生を生き抜くために住まいを再建し、夫婦ふたりで一日一生の思いで暮らし始めました。地域に交わり、慣れ親しんでこれから頑張っていくます。



あの日からいつか、と思っていたトリマーの仕事を再開できました

布施 友美さん

震災の直後は自分たちの身に何が起こったか分からず、先行きも見えませんでした。今でも私たちの中ではこの震災は終わっていません。震災後に生まれた息子と一緒に生きていくのが精一杯の毎日です。セカンドハーベスト・ジャパンさんから受け取った支援で、子どものミルクやお米をいただき本当に助かりました。本当に感謝の言葉しかありません。いま、あの日からいつか再開しようと準備を進めていたトリマーの仕事を、ようやく始めることができました。

震災後からこれまでの成果

東北へ届けた水の量

1,719,864 リットル

東北へ届けた食品の量

1,666,460 キロ

東北へ届けた食品パッケージ世帯数(延べ)

25,471 世帯

トラックへ物資を積んで東北へ向かった回数

225 回

支援者からのメッセージ

「食料支援」はホットライン活動に欠かせないもの。

遠藤 智子さん 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長



「よりそいホットライン」は、国の補助金をいただいて実施している24時間無休の何でも電話相談です。連日3万件を超える電話にはライフラインが停まり、所持金も食料もないという相談も沢山あります。そんな時「食料支援を頼みましょう!」と対応しています。2HJの存在にどんなに助けられていることが分かりません。日本のフードセキュリティは脆弱です。いま最も必要とされている皆さんの活動・挑戦に心から期待しています。

フードバンクネットワークの拡大に期待します。

合田 久輝さん

伊藤 見富法律事務所／モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所（外国法共同事業事務所）弁護士



2HJとのお付き合いは、東日本大震災直後に被災者支援についての問合せから始まります。以後様々な情報をご提供頂きながら、当事務所の弁護士、職員一同でできる支援を微力ながら継続しています。2HJが日本におけるフードバンクの草分けとして構築してきたノウハウに加え、緊急時の迅速な対応をも活かしてご活躍されると共に、より多くのコミュニティに認識され、フードバンクネットワークが更に拡大する事を期待しています。

私はフードバンク活動が好きです。

矢野 稔さん

植田製油株式会社 常務取締役



7年前にチャールズの講演でこの活動を知り、愛してきた。まだ食べられる廃棄食品の寄贈を食品企業にすすめるのが私の役割。好きでやっていることなので世の為、人の為とも思っていない。自分の為と思っている。恋人に賞賛や謝礼を求める人はいない。ただ愛情が深まるように相手を理解することは必要だ。フードバンク活動を愛する私は、食品企業への説得術も磨きたいし、食に困っている人々への理解を深める努力も続けていきたい。

強くて優しい絆創膏に。

大原 悦子さん ライター・津田塾大学教員



みんなが得するというシンプルで前向きなシステムに共感。以来ずっと応援しています。2008年には『フードバンクという挑戦』という本を書きました。フードバンクは絆創膏、所詮は応急処置だと言う人もいます。でも最初は小さな傷口が命を脅かす事態を招くこともあるでしょう。応急処置って大事なんですよ。傷ついた人がすぐ手に入れることができる、強くて優しくて頼りになる絆創膏。2HJはそんな存在であってほしいです。

セカンドハーベスト・ジャパン様と協力企業様との架け橋に

JPRレンタルパレットをご提供します。

中村 浩太さん 日本パレットレンタル株式会社 次世代事業PJ



2HJ様の活動において商品が納入される際の手荷役は重労働になります。JPRは納入される商品の積載にレンタルパレットをご利用いただくことをご提案しています。荷降ろし作業が短時間かつ苦労なく倉庫に入庫され、空いたパレットはJPRが回収するという運用を実施しています。少しでも2HJ様の活動がスムーズになるよう、協力企業様と2HJ様の架け橋になれるよう、物流面からこれからも協力していきたいと考えています。

無理なく継続的に、これからもたくさんの笑顔を受けよう

お付き合いさせていただきます!

横塚 元樹さん アサヒロジスティクス株式会社 代表取締役社長



決め手となったのは「無理なく継続的に」というお言葉。食品物流を専門に営む弊社において本業の物流で社会貢献できるお話は非常にありがたく、社員も積極的に取り組んでくれました。弊社従業員の家族向けの物流センター見学会イベントに児童養護施設のお子様を招待した時は、その喜んでいる姿に皆涙を流して感動していました。沢山の学びを得られるよう無理なく継続的に、そして積極的にお付き合いさせて頂きたいと考えています。

社会への先行投資。

山極 信治さん ブルームバーグ エル・ピー



2001年に活動支援を始めて以来、2HJは弊社の多様性と専門性を活かした地域への貢献を可能にしてくれる貴重な存在です。生活困窮者に食品を届けるという大切な役目に加え、被災者支援、現状の食糧問題やフードセーフティネット構築の提起など社会的に有意義な活動の展開に今後とも期待しています。2HJへの支援はよりよい社会への先行投資と捉え、これからも続けていきたいと考えています。

フードバンク活動の日本での展開をサポート。

ブレット・ダンドイさん ドイツ銀行グループ カントリーCOO



震災後、ボランティア活動で被災地を訪れるたびにセカンドハーベスト(2HJ)の活動を目にし、「フードバンク」の重要性を痛感しました。2HJは与えられたリソースを最大限に活用します。私たちが支援した宮城県石巻市の拠点開設および東京の本部施設の拡張も、期待通りの効果を発揮しています。そして、「ソーシャル・イノベーション・ファンド」の創設により、2015年の活動がさらに広がることを期待しています。

人生をも変えるフードバンク活動に賞賛の意を。

ボブ・トービン博士 作家、元慶応義塾大学教授



2HJは、単なる食べ物扱っている団体ではない。私は何年もこの団体のことを知っているが、2HJが行う活動が人々の生活を変え、またその人々の人生までも変えていることは明らかだ。人は食事を受け取り、そして変わっていく。2HJが大きな変化を遂げる新たな1年を迎えられたことに、賞賛の意を示したい。おめでとう。

2HJの先駆的な活動は後進の模範となっている。

ロン・チョイさん J.P. モルガン証券株式会社 エグゼクティブ・ディレクター



2HJは、社会が取り組んでいないニーズに革新的かつ組織的に長年対応し、実績を重ねており、慈善活動に携わっている多くの人々に様々な刺激を与えています。食糧を確保し、恵まれない人々に配るフードバンク活動を持続可能なモデルへと発展させたその先駆的活動は、後進の模範となっています。J.P. モルガンは2009年より2HJを支援し、複数のプロジェクトに社員が参加しており、今後もその活動を支援していく所存です。

衛生管理についてアドバイスさせていただいています。

イエンス・モスカーさん シャングリ・ラ ホテル東京 総支配人



シャングリ・ラ・ホテル東京では、社員の知識やスタッフをはじめ、我々のリソースを最大限に活用し、支援先のニーズにできるだけお応えするよう、努めています。例えば、キッチンやオフィスの衛生管理についてのアドバイス、使わなかった食材や未使用のシャンプー、コンディショナーの寄付、卸売業者を紹介するなどコスト面でも支援をさせていただいています。引続き多面的にサポートさせていただければ何よりです。

「全ての人に食べ物を」を体験する絶好のチャンス。

パーリントン・ケビンさん 日本オラクル株式会社



長年に渡り土曜日のハーベストキッチンとパントリーで、東日本大震災の被災者や食べ物を必要とする方々に送る食品を、パッケージにするボランティアをしています。私がここで参加しているハーベストキッチンとパントリーの活動は、2HJのビジョンである「全ての人に食べ物を」を体験する絶好のチャンスであり、「もったいない」を「いただきます」に変えていく事ができます。

※順不同

スタッフ紹介



マクジルトン・チャールズ

CEO

この仕事は、一生に一度出会えるかどうかの仕事だと思っています。素晴らしい人達と一緒に、新しいコンセプトをこれまでにないやり方で開拓しているのですから。日本は、私に多くのものを与えてくれました。これが、私の小さな恩返しです。私の元気の秘密は、スパムをたくさん食べることです。



浅野 文子

総務

TVで2HJの活動を知り、ボランティアとして参加。「すべての人に食べ物を」というミッションを、利害関係者と対等な関係を築きながら遂行する理念に感動を覚え、転職を決意。前職は外資系投資ファンドのパラリーガル。



杉山 祥子

パントリー／マネジメント・チーム

以前は女性と子どものシェルターで働いていました。新しく生活を始める親子にとって、2HJの存在は食べ物以上のものでした。「誰かが気にしてくれている、一人じゃないって思える」そんな声を大切にしながらやっていきたいです。



黒澤 剛

フードバンク部

食品衛生責任者／倉庫管理主任者

飲食関係のアルバイトや小売店での経験を経て、日常的に当たり前のように余っている食品を何かに生かせないかと思っていて、この仕組を新聞で見た瞬間にこの活動に一生関わっていこうと思いました。



高橋 寛明

フードバンク部 大型自動車二種免許

TV報道で2HJの活動を知り、食品配送のボランティアに参加。捨てられる運命にあった食品を様々な状況の人に届け、美味しく食べてもらい沢山の笑顔が生まれる。こんな素晴らしい活動を少しでも支えて行けたらと思い、スタッフに転向。毎日2tトラックにて多くの施設に食品を届けています。



増田 和久

フードバンク部 部長 食品衛生責任者

イタリア生活が長く、黄色くなった古本を大切に読むような、「物」を大切にする文化が好きです。その延長で、「食べ物」を大切に、それを必要とする方に届けるという活動に携わり始めました。今では「すべての人に、食べ物を」の理念達成へ一歩でも近づくよう全力投球中です。



石川 廣美

総務

年をとっての仕事探しで困っていた所、前職での経験が活き、ひょんな事から2HJに拾って頂いた新人。この様な活動がある事さえ知らなかった私は驚きと戸惑いの連続、周りのスタッフやボランティアの皆様の優しさに頭の下がる思いです。好きな食べ物は、田舎の文旦！



末永 博

パントリー／石巻駐在スタッフ 石巻プロジェクト担当

2011.3.11以前から2HJの活動を知っており震災を機に石巻にも拠点ができ、活動に参加させていただいています。震災発災から4年目を経過した被災地では生活を取り巻く環境も日々変化しております。今後は地域に根差した被災地での生活困窮者支援の為のネットワークの強化を目指します。



河田 了

情報システム担当

調理師・食品衛生責任者／倉庫管理主任者

ひきこもり時代にこっそり通った図書館で『フードバンクという挑戦』（大原悦子著）に感動し2HJでフルタイムのボランティアを始める。3.11後スタッフになり社会復帰させてもらった恩返しをすべく業務に励む。



金城 雅夫

フードバンク部

2HJの活動を知ったのは前職の仕事に聴いた、NHKのラジオ放送でした。チャールズさんの活動は、「体力以外に何の取柄もない私に出来る事はこれだ!!」との思いで、私も活動に参加させて頂いて今に至ります。



高原 恵

ボランティア・コーディネーター／マネジメント・チーム

食品衛生責任者

美味しい食事は世界を平和にできる、という母のもとに育つ。ボランティアの皆さんとチーム一丸となって、毎回楽しく活動しています。土曜日の炊き出しでは主に味見担当!?



芝田 雄司

パントリー

新聞で2HJを知り、以前から食品ロスの問題に興味があったので「これはやらなきゃ!」と思い、すぐにボランティア登録。施設への食品配送ボランティアを行う。震災を機に2HJに転職。石巻プロジェクト担当として現地で奮闘中。



會田 博志

施設管理／WEBサイト管理

食品衛生責任者

食う寝るところに住むところ…。何も食べずに生きていくことが、ぼくらには出来ない。食事を作ったり、食べたりが好きだから、この仕事をしています。コンピュータ畑からの転職。猫好き。



伊藤 令華

フードバンク部

食品衛生責任者／倉庫管理主任者

3.11の震災を機に現実の社会の課題と向き合おうと決め、大学卒業後2HJへ就職。捨てられる運命にあった食品がおいしい食事となり、食べること以上の価値を生みます!日々の食品運びでだんだん腕がムキムキに…



大竹 正寛

セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス

米国在住時にフードバンクの存在を知りwin-winな仕組みに魅了されました。想像以上にやりがいのある仕事で楽しんでいます。現在は日本におけるフードバンクの普及と発展のため公益財団法人セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンスを設立し、活動を進めています。

役員



マクジルトン・チャールズ

理事長

資金調達者、演説家、日本においてのフードバンキングの促進者です。



柴田 耕祥

理事

セカンドハーベストの運転手として物資を運んでいます。一週間に数回、妻のセイセイさんと共に人々に食べ物を届けています。セカンドハーベストと関東、名古屋、関西においての企業や組合を繋いでます。



鮎島 一匡

理事

セカンドハーベストでボランティアとして活動を始め、後に食料配送担当として2HJのスタッフとなりました。2011年にセカンドハーベストを退職し、現在はFCCC共生地域創造財団のCOOを務めています。



ニコラス・ハントリー

理事

セカンドハーベストの初期からのメンバー。自らの時間を使って倉庫管理の手伝いを行い、何トンという食料品を管理してきました。ピンチの時には常に頼りになる存在です。



ジョン・ベイルズ

理事

アリサンオーガニックセンター／テングナチュラルフーズの創設者兼オーナーであるジョンは、自身の食品輸入業者・販売者としての経験や知識に基づいた価値あるアドバイスを長い間に渡ってセカンドハーベストに提供しています。アリサンでは、顧客が買い物の際にセカンドハーベストに物品寄付をするとアリサンがそれと同額の物品寄付をするという“善意の共有”を行っています。これにより、ジョンは他の企業に対する先導となっているのです。



ガードナー・リチャード

理事

ガードナー・リチャードは、上智大学の国際教養学部にて、30年以上にわたり宗教や様々な科目を教えてきました。そして、同大学の国際教養学部部長や、夏期授業のディレクターも務めてきました。また、米国のミシガン州カラマズーを拠点とするフェッツァー・インスティテュートの教育諮問協議会の委員でもあります。



ガスキンス・リーランド

理事

プロフェッショナル・アドバイザー・ボードの最初のメンバーとして、2HJが財務モデルや成果測定規準を作る際や事業計画の更新をする際に、米国フードバンクの例を参考に中心となって活躍してくれました。2005年7月からアジアにおいてノースカロライナ州の海外投資誘致を担当し、米国における投資プロジェクトに関してアジアの企業をサポートしています。

FAB

フード・アドバイザー・ボード

食品企業や関連企業の担当者が集まり、フードバンクや食品業界に関するアイデアを共有する場です。この集まりは、2HJの新しい取り組みについて有益なフィードバックを出すだけでなく、寄付を検討している新規企業にとって2HJの活動を知る最初の入り口にもなっています。



PAB

プロフェッショナル・アドバイザー・ボード

この集まりは、海外からの外国人駐在員が集まり、彼らのネットワークやビジネス上の経験を駆使して、ビジネスのやり方に沿った2HJの成長を手助けするものです。外部者によるリアリティチェックとなるだけでなく、2HJのマネジメントと発展を促進するアドバイスを提供してくれています。

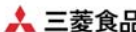


2014年度中に寄付や食品、物品の寄贈、ボランティア参加、
また物流面での支援など、様々な形で活動を支えてくださった
皆様の中から一部をご紹介します。

食品サポーター

					
キッコーマン株式会社	キューピー株式会社	ジェイティ飲料株式会社	合同会社 西友	株式会社ニチレイフーズ	日本生活協同組合連合会

									
アサヒ飲料株式会社	アサヒフードアンドヘルスケア株式会社	味の素株式会社	株式会社壺番屋	エスビー食品株式会社	オイシックス株式会社	ケンコーマヨネーズ株式会社	生活協同組合連合会 コープネット事業連合	コストコホールセール ジャパン株式会社	サントリーホールディングス 株式会社

									
JA全農たまご株式会社	株式会社大地を守る会	東洋水産株式会社	日仏貿易株式会社	日本ケロッグ合同会社	日本水産株式会社	ハーゲンダッツ ジャパン 株式会社	ハインツ日本株式会社	マルハニチロ株式会社	三菱食品株式会社

味の素冷凍食品株式会社 / 伊藤忠食品株式会社 / NTTコム マーケティング株式会社 / MCプロデュース株式会社 / 大塚食品株式会社 / 株式会社オリエンタルランド / 株式会社カタログハウス 株式会社カナエフーズ / カルビー株式会社 / カンロ株式会社 / キャンベルジャパン株式会社 / シマダヤ株式会社 / 大象ジャパン株式会社 / 東京デリカフーズ株式会社 / 株式会社東京商工社 東京地下鉄株式会社 / 株式会社ドール / 株式会社中村屋 / ネスレ日本株式会社 / 株式会社ハートフード / パルシステム生活協同組合連合会 / アリスタ フードソリューションズ ジャパン株式会社 ヒゲタ醤油株式会社 / 福山醸造株式会社 / 株式会社船昌 / 株式会社文明堂東京 / 松中商事株式会社 / ミエプロジェクト株式会社 / 株式会社ミトク / ヤマサ醤油株式会社 / 株式会社ヨックモック									
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

資金サポーター

 ニュースキンジャパン株式会社			 合同会社 西友		 J.P. モルガン				
 株式会社プラザクリエイト	 Fresh Pacific Fruit & Vegetable, Inc.	 キャンボスブラザーズファームス	連合・愛の カンパ	The Orinoco Foundation	 ブルームバーグ エル・ビー	 BNYメロン	 アドビ システムズ株式会社	Morgan Stanley モルガン・スタンレー	一般財団法人 日本メイスン財団
特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International / シスコシステムズ合同会社 / 三和ホールディングス株式会社 / グリフィス・ラボラトリーズ株式会社 / American School in Japan Tokyo American Club Women's Group / 在日アフリカ諸国大使 / 株式会社イー・エス・コーポレーション / 清泉インタナショナルスクール / リンベル株式会社 / EMCジャパン株式会社 / 聖アルバン聖公会 順天中学校・高等学校 / キッコーマン労働組合 / WITTSTOCK エコマラソン / キューピー株式会社 / エデルマン・ジャパン株式会社 / ジェイティ飲料株式会社 / TEN NANA株式会社 / 三和化学研究所労働組合 Christian Barrios / Junko Miura / Keiichi Sato / Tomoyuki Nakano / Eri Yokomichi / Shota Matsuura / Kae Noguchi / Miho Yoshida / Tomoko Kakegawa									

その他のサポーター

									
アサヒロジスティクス 株式会社	ALISHAN	食と生活ジャーナル	ジェイティ飲料株式会社	シャングリ・ラ ホテル 東京	住友金属鉱山株式会社	株式会社 セールスフォース・ドットコム	ドイツ銀行グループ	ニチレイロジグループ	日本バレットレンタル 株式会社
									
ひかり味噌株式会社	リコー社会貢献クラブ・ FreeWill	ブルームバーグ エル・ビー	三越伊勢丹グループ 労働組合	モリソン・フォースター 外国法事務弁護士事務所／ 伊藤 晃富法律事務所	労働者福祉中央協議会	株式会社 ワイズワークスプロジェクト			

会計報告 (2014年1月1日～2014年12月31日)

1. 活動計算書(簡易版) (単位:円)

科目		金額	
Ⅰ 経常収益			
1 受取会費	会員受取会費	30,000	
	受取入会金	3,000	33,000
2 受取寄付金	受取寄付金	80,912,866	
	施設等受入評価益	3,726,000	
	ボランティア受入評価益	28,682,100	113,320,966
3 事業収益	政策提言による事業収益	245,293	245,293
4 その他収益	受取利息	7,358	
	為替差益	9,068,472	
	雑収益	306,550	9,382,380
経常収益計			122,981,639
Ⅱ 経常費用			
1 事業費	ボランティア評価費用	28,373,400	
	(1) 人件費	その他人件費	37,740,730
		人件費計	66,114,130
	(2) その他経費	その他経費計	51,868,096
	事業費計		117,982,226
2 管理費	ボランティア評価費用	308,700	
	(1) 人件費	その他人件費	7,288,493
		人件費計	7,597,193
	(2) その他経費	その他経費計	7,530,452
	管理費計		15,127,645
経常費用計			133,109,871
当期経常増減額			-10,128,232
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			-10,128,232
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			-10,128,232
前期繰越正味財産額			125,890,671
次期繰越正味財産額			115,762,439

※計算書類の作成は、東京都に提出する活動報告書の書式に則り、NPO法人会計基準によっています。
固定資産の減価償却は、建物は旧定額法、その他の有形固定資産は定率法、無形固定資産は定額法によっています。
消費税等の会計処理は税込法によっています。
※事業別収支の詳細は、当団体ウェブサイトからご覧いただけます。
※ボランティアの役務の評価は一般のボランティアについては東京都の最低賃金により算定し、
プロボノによる役務については各専門職の標準報酬額を基準に算定しています。

2. 貸借対照表 (単位:円)

科目		金額		
Ⅰ 資産の部				
1 流動資産	現金預金	106,004,402		
	立替金	287,858		
	仮払金	63,640		
	流動資産合計		106,355,900	
2 固定資産	建物付属設備	2,334,209		
	車両運搬具	5,030,875		
	什器備品	1,088,132		
	有形固定資産計	8,453,216		
	(2) 無形固定資産	ソフトウェア	478,800	
	無形固定資産計	478,800		
	敷金	2,163,600		
	(3) 投資その他の資産	投資その他の資産計	2,163,600	
	固定資産合計		11,095,616	
	資産合計			117,451,516
Ⅱ 負債の部				
1 流動負債	未払金	1,372,053		
	預り金	317,024		
	流動負債合計		1,689,077	
2 固定負債	固定負債合計		0	
負債合計			1,689,077	
Ⅱ 正味財産の部				
前期繰越正味財産		125,890,671		
当期正味財産増減額		-10,128,232		
正味財産合計			115,762,439	
負債及び正味財産合計			117,451,516	

独立監査人の監査報告書

セカンドハーベスト・ジャパン

理事 マクジルトン・チャールズ・アール 殿

私は、セカンドハーベスト・ジャパンの平成26年1月1日から平成26年12月31日までの計算書類、すなわち、活動計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った。
この計算書類の作成責任はセカンドハーベスト・ジャパンにあり、私の責任は独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。
この監査に当たって、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、必要と認めた監査手続を実施した。
監査の結果、上記の計算書類が、セカンドハーベスト・ジャパンの収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認める。
なお、セカンドハーベスト・ジャパンと私との間には利害関係はない。
以上

作成日：平成27年2月20日
事務所名称：公認会計士 中島統吾事務所
公認会計士

中島統吾

ご支援頂いている皆様へ

もったいないをありがとうへ
すべての人に食べ物を...

皆様からの支援がこのスローガンを現実のものにしています。

私たちが提供する温かい食事、私たちがお渡しする食品が入ったバスケットやパッケージ、それから、児童養護施設へ届けられるたくさんの食料...
これらはすべて皆様一人ひとりのおかげです。
皆さまが私たちにくださった時間、才能、そして、それらを含めた様々な支援が、身の回りの問題を笑顔に変えてくれます。

皆様は私たちが住む社会を大きく変えたのと同様に、
私たちが接する人々の生活をも変えてくれました。
今日、私たちは共に私たちの後続く世代のために、より良い未来を築くことができます。

支援先、及びセカンドハーベスト・ジャパンのスタッフに代わり厚く御礼申し上げます。



セカンドハーベスト・ジャパン CEO
マクジルトン・チャールズ

あなたにできること セカンドハーベスト・ジャパンを支援するために、あなたにできることがあります。



TIME

ボランティアへの参加や
フードドライブ実施に関わる。



TALENT

スキルを活かしたプロボノや
インターンとして関わる。



TREASURE

お金の寄付をする。



TELL

Facebook、Twitterで
活動を広める。

詳しくはWebサイトをご覧ください。

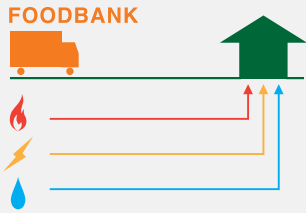
2HJ

検索

わたしたちが目指すもの

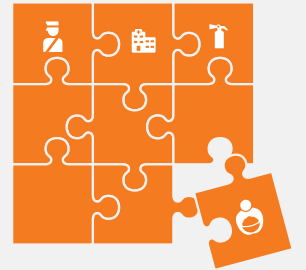
フードライフラインの強化・整備

食品を提供する企業、受け取る施設や団体が、フードバンクをより利用しやすくなるように、フードライフラインの強化・整備をします。ガスや電気、水道といったライフラインのように、食品を供給、利用できることがフードライフラインの目指す形です。特に流通企業や食品企業などの協力を得て、ソフト・ハード面でのフードバンクのインフラを作ります。



フードセーフティネットの構築

誰もが安全で栄養のある食品を手にすることができるよう。これが基本的なセーフティネットの一部であるべきだと私たちは考えています。それは例えば、地域で困った時に相談にのる交番の存在のように、怪我や病気の際に治療が受けられる病院のように、火事の時に消火活動を行う消防署のように、いつでも住んでいる地域にて緊急食料支援を受けられる、そんな「食」のセーフティネットを構築します。



公益財団法人 セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス 設立までの歩み

セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス(2HJA)は2013年11月に内閣府の認定を受け公益財団法人として歩み始めました。
2HJAの目的は、中央行政とより密接な協力関係を築き、また全国のフードバンク同士のネットワークを通じて、
日本におけるフードライフラインとフードセーフティネットを構築することです。



日本で初めて法人化された
フードバンクとなる



全国フードバンク・キャラバン及び
第2回フードバンクシンポジウムにて、
フードバンク・ガイドラインの
最初のドラフトを提示



地方フードバンク会議にて、
Global FoodBanking Networkが
様々な全国ネットワークモデルを紹介

第3回フードバンク
シンポジウムにて
「2010年度フードバンク
ガイドライン」
が署名される

年次総会にて
全国フードバンクネットワーク
構築のための公益財団法人を
創設するという、
2010年の決議を再承認

全国放送
「ガイアの夜明け」が
フードバンクを特集

2008年
夏・秋

全国フードバンク・キャラバン
及び第1回フードバンクシンポジウムにて、
フードバンクのガイドラインの
必要性を提示

2009年
夏・秋

2010年
3月27日

年次総会にて、
フードバンク活動を促進、
発展させるため、非営利法人を米国に、
設立することを承認

2010年
6月26日

名古屋にてフードバンク全国会議
地方フードバンクは緩やかなネットワークを選択

この会議において、米国の
フィーディング・アメリカに
似た全国ネットワークの創
設が提案。しかし地方フード
バンクはガイドラインの基
準遵守を調査しない緩やか
なネットワークを選択。



2010年
10月14日

2011年
2月19日～
20日

2011年
2月26日

2011年
秋

全国ネットワーク創設の
最初の段階として、
フードバンク山梨及び
セカンドハーベスト沖縄との
連盟創設に着手



2012年
3月17日

年次総会にて、フードバンク活動を
促進、発展させるため、公益財団法人を
日本に設立することを再度承認

2012年
9月

Fritz Instituteの協力を得て
物流専門家が来日し、
フードバンク山梨及び
セカンドハーベスト・ジャパンの
査定を行う



2012年
10月

第5回フードバンクシンポジウムにて、
全国ネットワークの目標、
基準及び方向性を提示

2013年
2月13日

一般財団法人
セカンドハーベスト・ジャパン・
アライアンス(2HJA)が設立

2013年
10月16日

第6回フードバンクシンポジウムにて、
申請状況、2014年事業年度の方針
及び目標が説明される



2013年
11月29日

第7回フードバンクシンポジウムにて、
フードバンク山梨及び
セカンドハーベスト沖縄が
革新的な資金計画を打ち出す

2014年
10月15日

内閣府の認定を受け、
2HJAが公益法人格を取得

2014年
11月

フードバンクガイドラインが
アライアンスのメンバー
によって承認される

セカンドハーベスト・ジャパンが
最初の監査を通過

2014年
12月26日

14のフードバンク団体がこの全国のネットワークに加盟しています(2015年2月時点)

- | | | |
|----------------|-----------------|------------------|
| ●フードバンク山形 | ●フードバンク北関東 | ●フードバンク関西 |
| ●ふうどばんく東北AGAIN | ●フードバンクちば | ●フードバンク鳥取(みもぎの会) |
| ●コープフードバンク | ●セカンドハーベスト・ジャパン | ●フードバンクかごしま |
| ●フードバンク宇都宮 | ●フードバンク山梨 | ●セカンドハーベスト沖縄 |
| ●フードバンク茨城 | ●セカンドハーベスト名古屋 | |